

新しい地方経済・生活環境創生交付金（デジタル実装型）活用事業評価

事業名

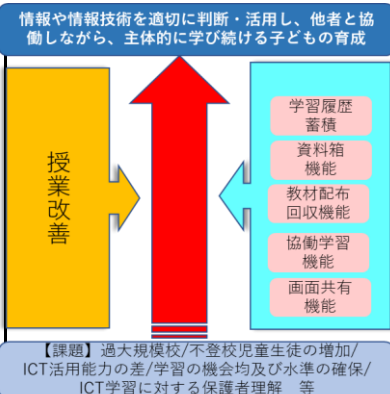
教育DX推進事業

事業概要

市内の教育環境を向上させるため、「ロイロノート」を導入し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を実現し、思考力・判断力・表現力等が備わった自律した学び手、及びデジタル社会で活躍する人材の育成に活用する。

具体サービス

「ロイロノート」は、協働学習機能、学習履歴の蓄積機能、考えやアイデアを可視化・整理し、深めていくことができる「シンキングツール」機能や、画面共有・教材配布回収機能を含む双方向授業を可能とするためのツールであり、新学習指導要領でも求められている思考力・判断力・表現力が育成され、資料箱等の活用により資料活用能力が向上し、自律した学び手となる土台をつくることができる。加えて、様々なツールの活用や、画像や動画の編集機能を活用することによりデジタル社会で活躍できる人材の育成につながる。



KPI

NO		種別	基準年度	目標値	実績値
①	授業支援ソフトの利用ログイン率 1年間でロイロノートに教職員及び児童生徒がログインした割合	アウトプット	2025	60%	50%
			2026	70%	-
			2027	80%	-
②	ICTを活用した学習満足度の増加 児童生徒を対象としたICT活用にかかるアンケート調査を実施し、「役に立っている」と回答した割合	アウトカム	2025	70%	94%
			2026	80%	-
			2027	90%	-
③	ICTを活用した学習効果の増加 児童生徒を対象としたICT活用にかかるアンケート調査を実施し、「学びが深まった」と回答した割合	アウトカム	2025	70%	91%
			2026	80%	-
			2027	90%	-

2025年評価

■実施による効果

「ロイロノート」に備わっている学習履歴蓄積機能等の“学習の利便性を高める機能”及び思考を可視化するシンキングツール機能等の“主体的・対話的な学びにつながる機能”が活用されるよう、導入前に教職員を対象とした研修を実施するとともに継続して学校へ周知を行ったことで、児童生徒において各種機能が十分に利用される状況に至ったと考える。

■改善点及び今後の方向性

利用促進のためには授業を行う教師への普及・啓発が必須であるため、継続して研修等の情報提供を行う。また、学校により利用ログイン率に差がある状況であることから、数値が低い学校の引き上げを目指し、活用事例の学校間での横展開の方法を検討する。また、「コミュニティスクール」のパートナーである郷づくり協議会との連携事業などを活用して、ふるさと学習などの学習においてロイロノートを活用し、作成した発表物などを郷づくりにも発表するなどして、周知を図る。